

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成30年2月14日

【四半期会計期間】 第26期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社J Pホールディングス

【英訳名】 JP-HOLDINGS, INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 荻田和宏

【本店の所在の場所】 名古屋市東区葵三丁目15番31号

【電話番号】 052(933)5419(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 松宮美佳

【最寄りの連絡場所】 名古屋市東区葵三丁目15番31号

【電話番号】 052(933)5419(代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 松宮美佳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第3四半期 連結累計期間	第26期 第3四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	16,720,268	19,771,184	22,799,279
経常利益 (千円)	809,232	855,533	1,350,851
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	466,381	484,454	661,473
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	503,601	490,237	675,632
純資産額 (千円)	6,611,647	7,302,292	6,854,381
総資産額 (千円)	25,650,623	26,065,286	24,002,078
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	5.56	5.70	7.87
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	25.8	28.0	28.5

回次	第25期 第3四半期 連結会計期間	第26期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.62	1.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第21期第1四半期連結会計期間より誤謬の訂正を行い、第25期第3四半期連結累計期間及び第25期連結会計年度の関連する主要な経営指標等について遡及処理の内容を反映させた数値を記載しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、第21期第1四半期連結会計期間より、誤謬の訂正を行っており、遡及処理の内容を反映させた数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較・分析を行っております。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、不安定な国際情勢により先行きが不透明な状況が続きましたが、企業収益の回復や雇用・所得環境の改善傾向が継続するなど、政府による各種経済政策の効果を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような環境の中、女性の社会進出を背景として保育需要が増加し、待機児童問題がますます深刻化しております。政府は、平成29年12月8日に閣議決定された「新しい経済政策パッケージ」において、幼児教育の無償化を一気に加速するとともに、「子育て安心プラン」を前倒しして2020年度末までに32万人分の保育の受け皿整備を行い、併せて保育士確保と処遇改善に更に取り組む方針を示しております。こうした政府の方針を受け、引き続き市場規模の拡大が見込まれるとともに、今後も自治体による待機児童解消に向けた取り組みは継続・拡充するものと思われま。

このような状況のもと、当社グループでは質の高い保育の実現に向け、保育所で勤務する従業員を対象とした処遇改善を継続的に実施するなど、保育士の採用強化と定着率の向上に取り組んでまいりました。また、高まる保育所ニーズへの対応として認可保育所等の開設を積極的に推進するとともに、国内での豊富な経験をもとに当社グループ初となる海外施設をベトナムに開園いたしました。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが開設した施設は以下の通りとなります。

(保育所)

アスクときわ台保育園	(平成29年4月1日)
足立区立五反野保育園	(平成29年4月1日)
アスク長崎一丁目保育園	(平成29年4月1日)
アスク上目黒保育園	(平成29年4月1日)
アスク岩戸北保育園	(平成29年4月1日)
アスク今井南保育園	(平成29年4月1日)
アスク長後保育園	(平成29年4月1日)
アスク利府保育園	(平成29年4月1日)
アスク竹下保育園	(平成29年4月1日)
アスク北谷保育園	(平成29年4月1日)
アスク真栄里保育園	(平成29年7月1日)

(学童クラブ)

アクティ柳町	(平成29年4月1日)
下谷こどもクラブA	(平成29年4月1日)
下谷こどもクラブB	(平成29年4月1日)
松葉こどもクラブA	(平成29年4月1日)
松葉こどもクラブB	(平成29年4月1日)

しばさき公園北第1学童クラブ	(平成29年4月1日)
しばさき公園北第2学童クラブ	(平成29年4月1日)
はなばたけ第2学童クラブ (民間学童クラブ)	(平成29年4月1日)
AEL横浜ビジネスパーク (幼稚園(海外施設))	(平成29年4月1日)
COHAS DA NANG(コハスダナン)	(平成29年9月12日)

その結果、当第3四半期連結会計期間末における保育所の数は183園、学童クラブは71施設、児童館は12施設、民間学童クラブは5施設、幼稚園(海外施設)は1園となり、子育て支援施設の合計は272施設となりました。

なお、上記のほか、平成29年9月にCohas Kids(コハスキッズ/幼稚園)をベトナムに開園しておりますが、フランチャイズ施設であることから施設数には含めておりません。

また、平成18年11月より運営してありましたアスク神楽坂保育園及び平成14年8月より運営してありましたアスクひばりヶ丘保育園は、平成29年4月に東京都認証保育所から認可保育所へ移行及び移転新設いたしました。

以上より、当第3四半期連結累計期間における連結売上高は19,771百万円(前年同期比18.2%増)となり、営業利益は637百万円(同4.9%減)、経常利益は855百万円(同5.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は484百万円(同3.9%増)となりました。連結売上高については、主に新規施設の開設及び既存施設の増収等により増加しているものの、営業利益については当初の見込みより微減となりました。これは、消費税の課税区分の見直しに伴う控除対象外消費税額の増加90百万円、臨時株主総会関連費用112百万円などの期初に見込んでいなかった費用等の影響によるものです。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は26,065百万円(前期末比2,063百万円増)となりました。

流動資産は9,699百万円(同2,639百万円増)となりましたが、これは、主に現金及び預金が2,078百万円、未収入金が519百万円、その他が203百万円増加した一方で、繰延税金資産が94百万円、たな卸資産が77百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は16,365百万円(同575百万円減)となっております。これは、主に建物及び構築物が557百万円、長期貸付金が72百万円増加した一方で、建設仮勘定が1,090百万円、投資その他の資産その他が128百万円減少したこと等によるものであります。

負債合計は18,762百万円(同1,615百万円増)となりました。

流動負債は8,368百万円(同1,829百万円増)となりましたが、これは、主に短期借入金が1,800百万円、未払金が544百万円、その他が468百万円増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が452百万円、賞与引当金が276百万円、未払消費税等が101百万円、未払法人税等が86百万円、支払手形及び買掛金が55百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は10,394百万円(同214百万円減)となっておりますが、これは、主に退職給付に係る負債が33百万円、その他が33百万円増加した一方で、長期借入金が283百万円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は7,302百万円(同447百万円増)となっておりますが、これは、主に利益剰余金が264百万円増加した一方で、自己株式が177百万円減少したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 従業員数

連結会社の状況

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは業容の拡大に伴い、子育て支援事業において326名増加しております。

なお、従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いた就業人員数であります。

提出会社の状況

当第3四半期累計期間において、当社における従業員数は管理部門の強化等に伴い、8名増加しております。

なお、従業員数は、当社から他社への出向者を除いた就業人員数であります。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間に株式会社日本保育サービスの保育所等の開園等により、主要な設備が次の通り変動しております。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	開園年月
株JPホールディングス	保育所1園 (宮城県)	子育て支援事業	保育所事業用 建物	平成29年4月
	保育所2園 (沖縄県)	子育て支援事業	保育所事業用 建物	平成29年4～7月
株日本保育サービス	保育所1園 (宮城県)	子育て支援事業	保育所 内装設備等	平成29年4月
	保育所6園 (東京都)	子育て支援事業	保育所 内装設備等	平成29年4月
	保育所2園 (神奈川県)	子育て支援事業	保育所 内装設備等	平成29年4月
	保育所1園 (福岡県)	子育て支援事業	保育所 内装設備等	平成29年4月
	保育所2園 (沖縄県)	子育て支援事業	保育所 内装設備等	平成29年4～7月
株日本保育総合研究所	民間学童クラブ1施設 (神奈川県)	子育て支援事業	学童クラブ 内装設備等	平成29年4月

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設の計画は次の通りであります。

主な設備投資は子育て支援事業における保育所等の設備等であり、保育所については当第3四半期連結会計期間末において許認可の内定を得られたもののみ開示しております。

会社名		株式会社日本保育サービス						
事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月	完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
保育所8園 (東京都)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	863,990	455,327	借入金及び 自己資金	平成29年7 月～平成30年 1月	平成30年2～3月	受入定員 約445人
保育所2園 (神奈川県)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	332,200	97,000	借入金及び 自己資金	平成29年10月	平成30年3月	受入定員 約150人
保育所1園 (千葉県)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	113,890	38,800	借入金及び 自己資金	平成29年12月	平成30年3月	受入定員 約60人
保育所1園 (大阪府)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	230,969	133,566	借入金及び 自己資金	平成29年10月	平成30年3月	受入定員 約60人
保育所1園 (滋賀県)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	163,469	31,000	借入金及び 自己資金	平成29年12月	平成30年3月	受入定員 約60人
保育所2園 (沖縄県)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	170,583	6,314	借入金及び 自己資金	平成30年2月	平成30年6月	受入定員 約110人

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

会社名		株式会社アメニティライフ						
事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月	完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
保育所1園 (神奈川県)	子育て支援 事業	保 育 所 内装設備等	135,900	12,500	借入金及び 自己資金	平成29年9月	平成30年3月	受入定員 約70人

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	295,000,000
計	295,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	87,849,400	87,849,400	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	87,849,400	87,849,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月31日		87,849,400		1,603,955		1,127,798

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、平成29年11月22日開催の臨時株主総会のために設定した基準日（平成29年10月19日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年10月19日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 87,839,500	878,395	
単元未満株式	普通株式 8,200		
発行済株式総数	87,849,400		
総株主の議決権		878,395	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が15,000株（議決権150個）含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己名義所有株式が6株含まれております。
3. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有している当社株式2,681,100株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年10月19日現在					
所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社J P ホールディングス	愛知県名古屋市東区葵 3丁目15-31号	1,700		1,700	0.00
計		1,700		1,700	0.00

- (注) 「株式給付信託(従業員持株会処分型)」の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式2,681,100株は、上記自己株式等には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人東海会計社による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,017,591	6,096,023
受取手形及び売掛金	50,552	59,353
たな卸資産	108,701	30,936
繰延税金資産	421,877	327,827
未収入金	1,698,958	2,218,857
その他	763,876	967,787
貸倒引当金	766	798
流動資産合計	7,060,792	9,699,988
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1 10,296,859	1 11,272,878
減価償却累計額及び減損損失累計額	3,434,689	3,852,991
建物及び構築物(純額)	6,862,169	7,419,886
機械装置及び運搬具	5,665	5,665
減価償却累計額	1,370	2,138
機械装置及び運搬具(純額)	4,294	3,527
工具、器具及び備品	1 614,965	1 709,403
減価償却累計額及び減損損失累計額	381,567	448,810
工具、器具及び備品(純額)	233,398	260,592
土地	980,894	980,894
建設仮勘定	1,694,631	604,336
有形固定資産合計	9,775,387	9,269,237
無形固定資産		
のれん	288,666	265,877
その他	234,792	1 217,712
無形固定資産合計	523,458	483,590
投資その他の資産		
投資有価証券	629,836	665,915
長期貸付金	3,176,073	3,248,478
差入保証金	1,701,345	1,712,556
繰延税金資産	328,764	307,875
その他	824,994	696,363
貸倒引当金	18,574	18,719
投資その他の資産合計	6,642,439	6,612,470
固定資産合計	16,941,286	16,365,298
資産合計	24,002,078	26,065,286

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	214,960	159,481
短期借入金	-	1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	3,250,349	2,797,838
未払金	841,422	1,385,939
未払法人税等	157,883	71,865
未払消費税等	165,273	63,482
賞与引当金	398,839	122,638
資産除去債務	10,726	-
繰延税金負債	577	-
その他	1,498,695	1,967,387
流動負債合計	6,538,727	8,368,633
固定負債		
長期借入金	9,855,493	9,572,034
繰延税金負債	1,668	1,999
退職給付に係る負債	471,565	504,622
長期未払金	3,700	3,700
資産除去債務	235,619	237,929
その他	40,923	74,075
固定負債合計	10,608,970	10,394,361
負債合計	17,147,697	18,762,994
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,603,955	1,603,955
資本剰余金	1,449,544	1,449,544
利益剰余金	4,730,138	4,994,973
自己株式	869,918	692,625
株主資本合計	6,913,719	7,355,847
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,596	37,869
繰延ヘッジ損益	852	42
為替換算調整勘定	-	1,111
退職給付に係る調整累計額	29,580	18,539
その他の包括利益累計額合計	63,324	57,477
非支配株主持分	3,985	3,922
純資産合計	6,854,381	7,302,292
負債純資産合計	24,002,078	26,065,286

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	16,720,268	19,771,184
売上原価	14,217,613	17,018,161
売上総利益	2,502,654	2,753,023
販売費及び一般管理費	1,832,953	2,116,003
営業利益	669,700	637,019
営業外収益		
受取利息	57,560	83,297
補助金収入	65,587	126,662
受取保証料	49,157	49,206
その他	12,347	17,235
営業外収益合計	184,653	276,401
営業外費用		
支払利息	34,188	38,773
持分法による投資損失	-	13,192
その他	10,932	5,920
営業外費用合計	45,120	57,886
経常利益	809,232	855,533
特別損失		
固定資産除却損	398	823
投資有価証券評価損	-	1,404
特別損失合計	398	2,228
税金等調整前四半期純利益	808,834	853,305
法人税、住民税及び事業税	215,749	258,219
法人税等調整額	126,742	110,694
法人税等合計	342,491	368,914
四半期純利益	466,342	484,390
非支配株主に帰属する四半期純損失()	38	63
親会社株主に帰属する四半期純利益	466,381	484,454

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	466,342	484,390
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	31,863	3,272
繰延ヘッジ損益	1,762	810
為替換算調整勘定	-	1,111
退職給付に係る調整額	7,158	11,040
その他の包括利益合計	37,259	5,846
四半期包括利益	503,601	490,237
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	503,640	490,300
非支配株主に係る四半期包括利益	38	63

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

第2四半期連結会計期間より、新たに設立したCOHAS VIETNAM CO., LTDを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(株式給付信託(従業員持株会処分型)に関する取引)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

当社は、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、「ジェイ・ピー従業員持株会」(以下、「持株会」といいます。)に加入するすべての従業員を対象に、当社株式の株価上昇メリットを還元するインセンティブ・プランです。

本制度では、当社は、当社を委託者、みずほ信託銀行株式会社を受託者とする株式給付信託(従業員持株会処分型)契約(以下、「本信託契約」といいます。)を締結しております。本信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。また、みずほ信託銀行株式会社は資産管理サービス信託銀行株式会社との間で、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)(以下、「信託E口」といいます。)を再信託受託者として有価証券等の信託財産の管理を再信託する契約を締結しております。

今後、持株会が取得する見込みの当社株式を、信託E口があらかじめ一括して取得し、持株会の株式取得に際して当社株式を売却していきます。信託終了時まで、信託E口が持株会への売却を通じて本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、それを残余財産として受益者適格要件を充足する持株会加入者に分配します。また当社は、信託銀行が当社株式を取得するための借入に対し保証を行っているため、信託終了時において、当社株価の下落により当該株式売却損相当の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末869,660千円、3,162,400株、当第3四半期連結会計期間末692,367千円、2,517,700株であります。

(3) 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度末 : 915,102千円

当第3四半期連結会計期間末 : 716,346千円

(四半期連結貸借対照表関係)

1 固定資産圧縮記帳

国庫補助金等受入により取得価額から直接減額した価額の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
建物及び構築物	497,038千円	704,719千円
工具、器具及び備品	3,061千円	6,745千円
無形固定資産(その他)	-	11,600千円
計	500,100千円	723,065千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	500,760千円	493,433千円
のれんの償却額	7,596千円	22,789千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	439,238	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(注) 平成28年6月29日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金21,962千円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月29日 定時株主総会	普通株式	219,619	2.50	平成29年3月31日	平成29年6月30日	利益剰余金

(注) 平成29年6月29日定時株主総会決議による配当金の総額には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金7,906千円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

当社グループは「子育て支援事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

当社グループは「子育て支援事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	5円56銭	5円70銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	466,381	484,454
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	466,381	484,454
普通株式の期中平均株式数(株)	83,940,674	85,013,554

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間3,907,020株、当第3四半期連結累計期間2,834,140株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月14日

株式会社J Pホールディングス
取締役会 御中

監査法人東海会計社

代表社員
業務執行社員 公認会計士 塚本 憲 司 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大島 幸 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社J Pホールディングスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社J Pホールディングス及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。